



雪舟没後 500 顕彰事業 プレイバック

11/19 未来の雪舟くんコンテスト

神が辻日曜ふれあい市で、「未来の雪舟くんコンテスト」が行われ、子どもたちは、雪舟の逸話にならい足の指に墨を付け、ネズミを描くことに挑戦しました。

8/3 雪舟さんってどんな人

体験イベント「雪舟さんってどんな人」では、座禅を組んだり雪舟さんのお話を聞いたりして、楽しい夏の一日の思い出ができました。



11/20

雪舟没後500年の法要

雪舟の没後500年の法要が宝福寺で行われました。雪舟顕彰事業市民会議の副会長も務める小鍛冶宝福寺住職は「一区切りついた」と安堵していました。



8/26

墨彩画公募展 入選作品展

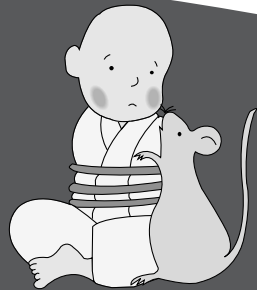
写真は、雪舟の里 総社 墨彩画公募展で雪舟大賞に輝いた「黄昏」について話す山本真一さん(岐阜県養老町)。この公募展には、全国から371点の力作が寄せられました。



■雪舟逍遥 「雪舟逍遥」と題し、広報紙の裏表紙で連載。雪舟の生涯を最新の情報を交えて紹介しました。

雪舟没後500年記念顕彰

右のような雪舟没後500年顕彰事業のシンボルマークもできました。このマークは、記念切手やティッシュペーパー、一筆箋などのデザインに取り入れられ多くの人に親しまれました。



雪舟没後500年顕彰事業シンボルマーク



■雪舟新聞

1506年のとある日という設定の雪舟新聞も登場した

雪舟没後500年の節目の年を迎えた昨年は、さまざまな顕彰事業が行われた。まず、2月には訪問団を編成し、雪舟が修行した中国の金山寺(鎮江市)を訪ねた。3月、人気作家の童門冬二さんが宝福寺で講演会し、雪舟への思いを披露。7月には、今回で6回目を数える雪舟の里 総社 墨彩画公募展が開かれ、雪舟大賞には、山本真一さん(岐阜県養老町)の「黄昏」が選ばれた。8月、小学生を対象に宝福寺で、「雪舟さんってどんな人」と題した体験講座を開催。子どもたちは座禅を組んだり絵を描いたり、雪舟に思いをはせる体験をした。9月、総社中央小学校3年生

が、墨彩画に挑戦。11月には、益田や山口など雪舟ゆかりの地を訪ねるツアーを実施。市民約30人が参加し、山口市であった雪舟サミットにも参加した。雪舟顕彰事業市民会議も組織され、顕彰事業を企画した。ネズミの刻印の入った饅頭や雪舟が亡くなった1506年にさかのぼって編集した雪舟新聞、雪舟のランチョンマット、記念切手などを登場させた。また、神が辻日曜ふれあい市で、足でネズミを描くコンテストを実施。ユニークな企画で多くの人に雪舟の偉業を印象づけた。

雪舟さんを顕彰。その偉業を再認識



2/13~16 金山寺を訪ねて

約40人で構成された訪問団で、金山寺を訪問。雪舟が修行し、描いた金山寺を目の当たりにし、文化の重みと景色の雄大さを感じることができました。



歓迎交流会で金山寺の心澄住職(右端)と雪舟について話をした



■雪舟まんじゅう

ネズミの絵をあしらった雪舟まんじゅうも登場。試作段階で、この春には完成品ができる予定です。中にはきびみどりで作ったあんが入っています。